

平成27年度第1回中国・四国ブロックエイズ
治療拠点病院等連絡協議会

中国・四国ブロックのエイズ対策の実施状況に
ついて(歯科)

平成27年8月21日

広島大学
大学院医歯薬保健学研究院
歯髄生物学研究室
病院口腔検査センター
柴 秀樹

HIV感染症の慢性化による歯科治療内容の変化

ART導入前 → 不治の病

- ・口腔カンジダ症
- ・カポジ肉腫
- ・HIV関連歯周疾患 など
(壊死性潰瘍性歯周炎)

AIDSによる(HIV感染に伴う)
口腔症状への治療が主体

ART導入後 → 慢性化

- ・一般歯科治療
- ・口腔衛生管理(う蝕・歯周疾患の予防)

多くのHIV陽性者はライフスタイルに合わせた
地域の歯科医院の受診を希望している。

中国四国ブロックにおけるエイズ対策（歯科）

①ライフスタイルに合わせて、かつ安心して
歯科診療を受けることができる体制作り

②HIV感染症の早期発見・拡大予防

③口腔の健康の維持・増進

①ライフスタイルに合わせて、かつ安心して
歯科診療を受けられることができる体制作り

HIV歯科医療体制の構築
HIV感染に対する基礎知識の普及

第5回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議
2014年10月26日(日) 会場: 広島大学病院 臨床管理棟 3階 大会議室
プログラム

- 9:30～9:40 開会の挨拶、藤井 輝久
(広島大学病院 輸血部長・エイズ医療対策室長)
- 9:40～11:10 講演1「HIV感染症の現状と展望」
村松 崇先生(東京医科大学病院 臨床検査医科学科 助教)
- 11:20～12:00 講演2「歯科への期待のメッセージ」
森戸 克則氏(大阪HIV薬害訴訟原告団 理事)
- 13:00～14:00 話題提供「地域におけるHIV歯科診療体制構築のポイント
～行政、歯科医師会、拠点病院の役割について～」
秋野 憲一先生
厚生労働科学研究「HIV感染症の医療体制の整備に関する
研究歯科のHIV診療体制整備」研究班 研究協力者
(札幌市保健福祉局保健所 歯科保健担当課長)
- 14:00～15:00 会議
議題「中国四国ブロックにおけるHIV陽性者の歯科医療体制構築について」
司会: 栗原 英見(広島大学病院 主席副病院長)
- 15:00～15:10 閉会の挨拶、栗原 英見(広島大学病院 主席副病院長)

参加団体(病院)数と参加者数

歯科医師会

5県から:広島県、岡山県、山口県、島根県、高知県

拠点病院(各県:中核拠点病院はすべて参加)

愛媛県:2病院

香川県:2病院

徳島県:1病院

高知県:2病院

鳥取県:2病院

島根県:3病院

山口県:1病院

岡山県:5病院

広島県:3病院(広島大学病院を除く)

参加者数(広島大学病院を除く)

歯科医師:27名、歯科衛生士:18名

中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築 のための研究会議

第1回(平成22年)から第5回(平成26年): 広島県広島市

第6回(平成27年): 11月1日、岡山県岡山市
岡山コンベンションセンター

《平成26年度広島県歯科医師会の会員・準会員のためのHIV感染症に関する講習会》

平成26年11月30日(日)、三次ロイヤルホテル(三次市)

13:00～13:10 開会の挨拶(広島大学病院 地域連携歯科医療部長 津賀 一弘)

13:10～14:30 講演①「HIV感染症の概要(疫学・病態・治療法)」

講師;川崎医科大学 血液内科学 教授

和田 秀穂 先生

14:30～14:45 休憩

14:45～15:15 講演②「血液曝露後の対応」

講師;広島大学病院 輸血部 山崎 尚也

15:15～15:30 休憩

15:30～16:30 講演③「補綴物製作過程における感染対策

— 歯科チームにおける連携を求めて —」

講師;(公・社)日本歯科技工士会、生涯研修認定講師、

大阪大学非常勤講師 大西 正和 先生

16:30～16:40 閉会の挨拶(一般社団法人広島県歯科医師会 副会長 片山 巖)

参加者: 7名

27年



②HIV感染症の早期発見・拡大予防
HIV感染に対する基礎知識の普及

例えば

35歳のカンジダ症→免疫不全の可能性

白色の付着物の原因の一つとしてHIV感染症を

疑う？

- ・ CD4: 48/μl
- ・ HIV-RNA量: 6.8×10^2 /ml
- ・ HIV陽性と判明

口腔症状（粘膜潰瘍、カンジダ症など）の出現の原因の一つ

HIV感染を思い浮かべる

早期発見

エイズ拠点病院
へ紹介

③口腔の健康の維持・増進

抗HIV薬が口腔乾燥および味覚に及ぼす影響
(疫学研究)

HIV感染症患者は、感染ウイルスおよび抗HIV薬の副作用によって口腔乾燥が生じる場合があると言われている。口腔乾燥は細菌感染症であるう蝕リスクを高め、また、味覚障害を引き起こす。

抗HIV薬服用患者の口腔健康維持のため、最も適した口腔衛生管理法を確立する必要がある。

本学病院血液内科に通院しているHIV陽性患者の口腔乾燥および味覚障害の自覚症状、唾液分泌量、粘膜の水分量、味覚の程度を調べ、**抗HIV薬と口腔乾燥および味覚障害との関連**の検討を開始した(本学疫学研究倫理審査委員会の承認(承認番号:疫-1035))。

本研究の成果はHIV陽性患者のう蝕予防や味覚異常の改善に役立つとともに、口腔の健康は全身の健康に寄与することから、HIV陽性患者のQOLの向上につながる。

検査項目

1. VAS評価(口渇感・味覚障害)
2. 刺激時唾液量(ガムテスト)測定
3. 口腔細菌数測定
4. 口腔カンジダ菌の検出の有無
5. 味覚テスト(テーストディスク(三和化学研究所))
など

HIV感染の慢性疾患化

ライフスタイルに合わせた地域の歯科医院の受診

HIV陽性者の高齢化

成人病やガンの罹患が増加

中国四国ブロックにおけるエイズ対策（歯科）

①ライフスタイルに合わせて、かつ安心して
歯科診療を受けることができる体制作り

②HIV感染症の早期発見・拡大予防

③口腔の健康の維持・増進

今後とも、ご支援、ご協力の程
よろしくお願いいたします。